

【東海市】
校務D X計画

1 校務系ネットワークシステムの現状

令和4年度（2022年度）に、主に以下の機能を保有する現行の校務系ネットワークを整備している。

- (1) 当時のガイドラインに基づき「学習系」「校務系」「校務外接系」の3系統で分離されたネットワーク
- (2) 統合型校務支援システム
- (3) 全小中学校及び教育委員会で共通のグループウェア
- (4) 採点支援システム
- (5) ファイル無害化システム
- (7) 5種類のメールアドレス（学校代表及び4役用）
- (8) 学校と保護者間の欠席連絡システム（令和5年度（2023年度）に追加導入）

2 校務D X推進に向けた具体的な取組

「GIGAスクール構想の下での校務D Xチェックリスト（学校設置者向け）」¹に示されている「教育D Xを推進する際に取り組むことが望ましい項目」について、具体的な取組を以下に記載する。

・ 教育委員会所管の業務のデジタル化

番号	項目	具体的な取組
1	教育委員会主催の研修をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	研修の性質に応じて、対面かオンラインかのいずれかで実施しているため、ハイブリッドでは実施していない。
2	教育委員会主催の研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。	実施していない。
3	教育委員会主催の研修で端末利用・持ち込みを基本とし、クラウドサービスを活用していますか。	研修の性質に応じて、一部実施している。
4	教育委員会主催の研修について、資料をクラウド上にアップロードしいつでも参照できる環境としていますか。	研修の性質に応じて、一部実施している。
5	教育委員会主催の研修アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか	研修の性質に応じて、一部実施している。

¹ 文部科学省 「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（学校設置者向け）」 文部科学省ホームページ
https://www.mext.go.jp/content/20240930-mxt_jogai01-000033278_001.pdf（令和6年(2024年)12月現在）

番号	項目	具体的な取組
6	学校との各種事務手続きをペーパーレス化していますか。	各種の通知や申請、照会業務は、グループウェアのメッセージ及びアンケート機能にてペーパーレス化をしている。
7	「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の学校との日常のやりとりにFAXを使用していますか。	原則、日常業務においてファクシミリは使用していない。
8	学校で取り扱う書類で、教育委員会から押印を求めている書類はありますか。	日常業務において、学校印の押印を求める様式は使用していない。
9	教育委員会が学校に発信する通知や調査をクラウドサービスを用いて共有、実施、集計していますか。	グループウェアのメッセージ機能及びアンケート機能を用いて行っている。
10	教育委員会から学校及び教職員へのお知らせや相互の情報共有等をクラウドサービスを用いて行っていますか	グループウェアのメッセージ機能を用いて行っている。
11	教育委員会の指導主事にGIGA端末を支給していますか。	現行のリース契約に基づく端末数に限りがあり、現状は支給しておらず、契約の都合上、端末の追加整備も難しい。 次期更改時に、指導助言等の指導主事の業務遂行上の必要性を確認の上、端末の支給を検討する。
12	教育委員会に学校と同様のクラウド環境を整備していますか。	校務系については整備しているが、学習系については未整備の状況にある。 また、現在の契約期間中での追加整備は難しい。 次期更改時に、教育委員会内での学習系環境の整備を検討する。
13	教職員に外部ともやり取り可能な校務用の個人メールアドレスを付与していますか。	現行のリース契約では、学校代表及び4役用として、各学校に5つのメールアドレスを付与している。 個人メールアドレスの付与については、メリット・デメリット双方の観点から検証が必要と考えており、今後、学校や教職員における必要性や、管理方法を確認していく。

番号	項目	具体的な取組
1 4	教職員が校務用の端末を学校外において使用できるクラウド環境を整えていますか。	現状のネットワークは、センターサーバ内のオンプレミスで校務システムを導入しており、職員室以外で端末を使用することはできない。 次期更改時に、次世代型校務支援システムの導入とあわせて、学校外における校務端末の利用のあり方等を検討する。
1 5	クラウド環境を学校外で使用した際の適切な勤怠管理・勤務時間管理の仕組みを整えていますか。	現在は、職員室に教職員が入退室する際のタッチパネル操作により勤怠管理を行っている。 また、校務用端末について、職員室以外で使用できる環境が整備されていないため、当該の仕組みは整備していない。 次期更改時には、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの導入とあわせて、客観的な勤務時間の集計のあり方は含め適切な管理のための仕組みを検討する。
1 6	新入学児童生徒の名簿情報の学校への提供方法を教えてください。	デジタルデータで処理可能な電子ファイルで提供している

・ 次世代校務D X環境の整備

番号	項目	具体的な取組
1 7	統合型校務支援システムを導入していますか。	令和4年度（2022年度）から導入している。
1 8	校務支援システムの導入又は次期更改において、ネットワーク統合と汎用クラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの導入を検討していますか	次期更改時に導入を検討する。

・ その他

番号	項目	具体的な取組
19	自治体の文書管理規程等で、教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を定めていますか。	公文書のデジタル化に関する規程は、本市全体としても定めておらず、今後、本市として自治体DXを推進する中で、関連規程の整備を含めた取扱内容を注視しつつ、適宜対応していく。
20	学校や教職員からフィルタリングに関する要望があったときに柔軟に反映する仕組みや体制を整えていますか。 (学校に、一部フィルタリング設定の裁量権を与えている場合も含む)	現在は各学校から教育委員会に申請を受け、都度対応をしている。 次期更改時は、必要に応じて、より効率的な仕組みを検討していく。
21	自治体のセキュリティポリシーとは別に、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定していますか。	策定している。

3 次期ネットワーク更新に向けて

「2 校務DX推進に向けた具体的な取組」で記載した内容と、「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」²の資料内での提言を踏まえ、今後望ましい校務のあり方の実現に向けて、令和9年度（2027年度）から新たに整備を予定している次期学校ネットワークでは以下の事項を実現する環境を整備できるように、必要な検討や取組を進めていく。

(1) 働き方改革の観点

ア 次世代型校務支援システムの導入

教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするために、職員室外や学校外の環境から校務系及び学習系ネットワークへ接続可能な環境を整備する。

イ 汎用クラウドツールの積極的な活用

業務のペーパーレス化を促進し、職員の事務処理の負担軽減や、コミュニケーションの迅速化と活性化を可能とするために、汎用クラウドツールを積極的に活用する。

ウ 十分な端末数の整備

働き方改革を推進し、教育委員会と学校・教職員間の情報共有や連携をより円滑に行えるよう、端末数の十分な確保に取り組む。

(2) データ連携の観点

校務系と学習系の異なるネットワーク間でのデータ連携を円滑に行うため、セキュリティ対策を十分講じた上で、ネットワークの統合を行う。

(3) レジリエンスの観点

² GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議 「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」 文部科学省ホームページ

https://www.mext.go.jp/content/20230308-mxt_jogai01-000027984_001.pdf (令和6年(2024年)12月現在)

大規模災害により学校施設や教育委員会の庁舎等が損傷・損壊した場合のデータの喪失を防ぎ、業務の継続性を確保できるネットワークを整備する。